



ば は ら

波原便り高

県立辺土名高等学校
令和6年7月17日(水)
発行者 校長 桃原健次
第7号

「総合的な探究の時間」の学習

※7月5日(金)は、天候に恵まれ、各学年とも充実した一日間の学習に取り組みました。



1年生：自然・野外学習

1年生は「野外での郷土の自然に親しみ、自然環境のバランスやその大切さを学ぶ。地層、岩石、西部などの観察を行い、郷土の成り立ちや、地質、生物などについて学ぶ。」ことを目的に沖縄本島北部の自然環境を対象に野外学習を行いました。

国頭村の座津武では、過去の数万年前の海面上昇や下降によって波などで削られてできた海岸段丘、辺戸岬で数万年前の海底にサンゴや貝類の死骸が積もってできた岩石が雨水で浸食されてできた石灰岩地形と、潮風・乾燥など厳しい環境で育つ海浜植物、辺野喜ダムで植物群落遷移、名護市底仁屋で地層の断層と地殻変動などの大きな力で地層がS字上に曲がってしまった横臥しゅう曲(写真)、東村慶佐次では、海水でも育つ特殊な能力を持った植物の集まりのマングローブ(種名ではありません)の観察を行い(写真)、北部の特徴的な自然について学びました。



2年生：交流及び共同学習

2年生は「特別支援学校の生徒との交流を通して、生徒が障害について学び、障害がある者もない者もお互いにその人格と個性を尊重し合う意識の育成を図り、豊かな人間性を育むとともに、共生社会を担う人材の育成を目指す。」ことを目的に、7月5日(金)本校の2年生が名護市にある桜野特別支援学校を訪問し、生徒の支援や交流、施設見学を行いました(写真)。また、7月8日(月)は、桜野特別支援学校の生徒が辺土名高校を訪問し、本校の生徒が案内役を務め、校内施設や生きもの博物館を見学し、ヤギなど動物とのふれあい体験を行いました(写真)。二日間に渡って、特別支援学校の生徒と交流することで、お互いの理解を深めることができました。



3年生：平和・野外学習

3年生は「地域の戦跡を巡ることで戦争の悲惨さ等を体感し、人権蹂躪の最たるものが戦争であることを考える機会とし、また、自分たちの故郷の歴史を考え、現在の状況と結びつけ、未来に向けて何ができるか、平和を自分事として意識することの大切さを実感させる。」ことを目的に今回は本部半島の戦跡等を見学しました。当日は本部町の謝花国民学校跡や軍艦に関連した鎮魂碑、三中の学徒動員に関連した慰霊碑(写真:左)などを見学し、ガイドの山本氏(本部町立博物館)、大嶺氏(名護博物館)の丁寧で分かりやすく説明していただきました。今回の野外学習で、当時の教育、軍人、市民、社会情勢等について知り、創造することで、平和について考える機会になりました。



※波原便りは辺土名高校のホームページにて、過去号も含めご覧になれます。